



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

秋号 2024

発行所 真宗大谷派 旭川別院
輪番 太田 法生
〒070-0030 旭川市宮下2丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411

印刷:植平印刷株式会社
旭川別院ホームページ

旭川別院 | 検索

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう



帯広市 大昭寺住職 中野 誠 二

南無阿弥陀仏

く仏からの呼びかけ

前号では、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」のテーマの冒頭にある「南無阿弥陀仏」とは、浄土真実選択本願なる仏のはたらきであることを述べました。またそれは同時に私たちへの仏からの呼びかけであり、問いかけでもあります。テーマに即して言うとう、「人と生まれたことの意味をたずねていこう」という仏からの呼びかけであり、それは仏の願いです。仏教の伝統的な言葉では、一人ひとりの「出世本懐」を問いかけていた言葉です。つまり、このたびの法要のテーマは、私たちに「この世に生まれ出てきた本当の意味とは何か」を問うているのでしょうか。

八月号では、やなせたかし氏の「アンパンマンのマーチ」にある「なんのために生まれて なにをして生きるのか こたえられないなんて そんなのはいやだ!」という、ご自身の心の叫びとも言える歌詞に触れましたが、今回は親鸞聖人の出世本懐について述べさせていただきます。

親鸞聖人の出世本懐

親鸞聖人は「正信偈」の中で、

如来所以興出世 唯説弥陀本願海
五濁惡時 群生海 応信如来如実言
(如来、世に興出したまう所以は、唯、弥陀本願海を説かんとなり。五濁惡時の群生海、如来如実の言を信ずべし)
(真宗聖典第二版二二七頁(初版二〇四頁))
「如来」の出世本懐について述べておられます。ここでの「如来」とはお釈迦さまのことですが、それには「諸仏」の意味も含まれています(参照 真宗聖典第二版六五〇頁(初版五三二頁))。では、「諸仏」とはどのような存在なのでしょう。存覚上人は「浄土真要鈔」の中で、総じていうときは、真の善知識というは諸仏・菩薩なり。(中略)仏・菩薩のほかに衆生のために法をきかしめんひとをば、善知識というべしと云ふことなり。またまさしくみずから法をとききかするひとならねども、法をきかする縁となるひとをも善知識となづく。
(真宗聖典第二版八七六〜八七七頁(初版七二二〜七二三頁))
と述べられています。善知識と諸仏は同義であり、仏法を聞かせてくださるとともに、仏法を聞かせる縁となる人も善知識、つまり諸仏だと言われるのです。諸仏とは、私たちの仏法聴聞の縁となり、それを勧めてくださる存在なのです。親鸞聖人のご生涯における直接の諸仏は法然上人

です。その師をとおして、七祖が生きた本願念仏の教えに出遇われました。そのような遇法の恵みを与えてくださる存在が諸仏なのです。

親鸞聖人は三十五歳のときに、いわゆる承元の法難によって越後(現在の新潟県)へ流罪に処せられ、その後、関東に移住されました。その地でおおよそ二十年間お過ごしになり、六十二歳頃(六十・六十三・六十四歳等の諸説あり)。(真宗聖典第二版一三八七頁)に京都へ帰られるのですが、関東の門弟との関係は生涯途切れませんでした。様々な人々との出会いの中で、念仏の教えや人間あるいは人生の苦しみについて深く語り合われたことでしょう。悶え苦しみながら生きる人々との交わりをとおして、人が生きることにについて多くのことを教えられ、仏法を聞く縁とされたのではないのでしょうか。親鸞聖人が言われる諸仏には、ともに念仏の教えを聞く、そのような市井の人々も含まれているのだと思います。

仏に教えられた存在

先述の「如来」の字義には、「真如より来生するもの」(中村元『佛敎語大辞典』)とあります。親鸞聖人は「正信偈」の中で、お釈迦さまや諸仏の意義を含む「如来」がこの世にいられた本意は、弥陀の本願を説くためであったと云われます。そして、それはそのまま、この世に生まれた本意の意味は本願に出遇うためであったとの、親鸞聖人ご自身の出世本懐を語るものでもあったのです。

愚禿親鸞の名告り

「正信偈」では、次に「五濁惡時群生海」と続きます。これは、阿弥陀仏の本願によって「五濁惡時」を「群生」として生きる我が身であったと知らされた、という意味です。この「群れて生きる」という「群生」とは、「つながりを生きている」とともに生きる」と言いかえることができるでしょう。ここには、五つの濁りに染まるこの世の中を、本願

の呼びかけを聞きながら「群生」として力強く、堂々と生きていくことが表明されています。親鸞聖人は「愚禿親鸞」と名告られましたが、その奥底にはこの深いうなずきがあったのです。「親鸞」という名は、七高僧の中の天親菩薩と曇鸞大師の「親」と「鸞」からお取りになったと言われています。安田理深先生は、この名について次のようにおっしゃっています。

親鸞という名は、天親・曇鸞の名を取ったのであるから、親鸞という名が、「教行信証」の使命というものをあらわすような名ではないかと思う。如来の恩に応えるような事業をあらわす名である。(『安田理深選集』第十五巻上四三三五頁)

安田先生は、念仏の教えをたまわった者が、それを後世の人々に伝える使命をあらわす名告りが「親鸞」だと言われているのです。親鸞聖人にとつては、「愚禿」なる我が身が他とともに救われる仏道をあきらかにする「教行信証」の撰述こそが、仏法に出遇った者としての使命だったのです。

親鸞聖人は自らの名前に上に、仏教の伝統に倣って「釈迦・諸仏の弟子」(真宗聖典第二版二七八頁(初版二四五頁))として「釈」の一字を、さらにその上に「愚禿」の字を付して名告られました。この「愚禿」で思い出すのが、アイヌ民族の結城幸司さんのお話です。あるとき、「アイヌとは、日本語に直すと人間という意味です」と言われ、さらに「それはカムイ(アイヌ語で神さまの意)に対する存在なのです」と教えていただきました。アイヌとはカムイにおいてアイヌであり、人間は神さまの存在があつて初めて人間と言ひ得るといふことなのでしょう。

私はこのお話を聞き、大変驚きました。なぜならアイヌの方々の存在意義が、親鸞聖人の名告りの根拠と同じだったからです。親鸞聖人は、仏に言い当てられた存在として、自らを「愚禿」と名告られました。「愚禿」なる我が身もアイヌという人間と同様に、単独で言ひ得るものではなく、仏に教えられた存在としての「愚禿」なのです。それが「愚禿親鸞」の内実なのでしょう。(次号に続く)

「釈尊がこの世に生まれ出た直接の目的をいう。この世にお生まれになられた本意。(中村元『佛敎語大辞典』)」

法座・行事案内予定

Table with 3 columns: Date, Time, and Event. Includes monthly schedules for October, November, and December.



輪番感話 ⑭

住職となり三十年が過ぎた。葬儀も何百件とお勤めさせていただいたことであろう。今思うと至らぬ住職が、参詣者の前で儀式を行い、法話をさせていただくことは、反省ばかりの恥ずかしい思いである。

最近の葬儀では形態も大きく変化し、大勢の参詣者による葬儀や、近隣のお手伝いも必要としない葬儀が大半となったが、私が住職になりたての頃は、お寺や会館での葬儀が多く、町内会の人々のお手伝いが必要であった。しかし、近年での葬儀の在り方については、葬儀社のテレビのCMマーシャルなどでは盛んに家族や身内だけの葬儀を推奨し、煩わしくな

く便利な、いわゆる家族葬と言われる形態がほとんどとなり、一日葬や直葬も特別ではなくなりつつある。本来葬儀は故人との関わりを持った縁のある方々の弔うべき公的なものであったが、僧侶側からすると、それは仏事の軽視であるとは簡単に批判することはできない。

逆に世間から見ると、葬儀での僧侶に対しての不信感をもって、見られていたことがあったのかもしれない。「態度が横柄で、機嫌が悪く、上から目線で話しづらい」、「お勤めが早く、早く終わらそうと粗末さが見受けられる」、「法話で何を伝えようとしているのか分からず、聞くに堪

えない苦痛な時間であった。」など諦めの関係だとしたら、危機状況はむしろ私自身僧侶の問題である。故人を偲び参詣されている方々の大切な縁に、丁寧に儀式を行い、わかりやすく法話をさせていたいただきながら、葬儀が生死のことわりを自分のこととして聞法させていたいただき、法座の場となるよう心がけなければならぬのである。

今思うと、浅学の住職が三十年以上も勤めさせていただいてきたが、その時々は一生涯懸命だったとしても、今思うと本当に恥ずかしいことである。

(太田 法生)



真宗大谷派

旭川別院

報恩講

2024年 11月1日～5日

鍵役 宣心院殿御参修

- 結願速夜 / 4日 14時～
- 結願日中 / 5日 10時～



おたに のぶみ
大谷 暢文 殿
東本願寺鍵役

報恩講講師

3日 速夜 / 4日 晨朝・日中・結願速夜 / 5日 結願晨朝・結願日中

1日 速夜 / 2日 晨朝・速夜 / 3日 晨朝・日中



のぶつか ともみち
延塚 知道 氏
(九州教区 昭光寺住職)



なかの せいじ
中野 誠二 氏
(帯広市 大昭寺住職)

6日	5日	4日	3日	2日	1日	日
水	火	月	日	土	金	法要
7時(院内) (法話なし)	7時 (法話あり)	7時(院内) (法話あり)	7時(院内) (法話あり)	7時(院内) (法話あり)		晨 朝
	10時 (法話あり)	10時 (法話あり)	10時(院内) (法話あり)		幼稚園報恩講 10時30分	日 中
	幌加内そば (日中参詣後)	お弁当 (日中参詣後)	お弁当 (日中参詣後)			お 齋
		14時 鍵役ご挨拶 (法話あり)	13時半(院内) (法話あり)	14時(院内) (法話あり)	14時(院内) (法話あり)	速 夜
			15時半			御伝鈔

※(院内)は別院の輪番・列座のみのお勤めです。

○お齋券の配布はございません。 ○3日、4日の会食会場は大谷ホールです。
○3日速夜・4日結願速夜・5日結願日中にご参詣の方には記念品を配布いたします。

謹啓 秋晴の候、ご門徒各位には益々ご清祥のことと存じ上げます。さて、旭川別院宗祖聖人報恩講は、宣心院殿ご参修のもと、崇敬寺院、和暢会ご参勤にて、左記の通り厳修させて頂きます。何卒、ご参詣下さいます様、お待ち申し上げます。尚、三日日中参詣後・四日日中参詣後のお弁当、五日結願日中参詣後の幌加内そばを用意致しております。

報恩講日程(予定)

旭川別院報恩講 実行委員長 塚本 信樹
旭川別院輪番 太田 法生
合掌

法 あれ 仏 これ

「浄土」真宗とは

宗祖親鸞聖人は、師の法然上人との出遇いをおして阿弥陀仏に帰依し、「南無阿弥陀仏」と称えることが全ての人に開かれた平等な救いの道であるといただかれました。

浄土は仏さまの世界です。その仏さまの世界に生まれることが私達にとつての救いです。日頃私達の欲望に左右されることなく、いつも変わらぬ「南無阿弥陀仏」のお念仏は、いつでも、どこでも、だれでもできる普通の仏道です。

日々を苦しみ、悩み、悲しむ私達は浄土を願い、お念仏申すことで人として生まれ、生きていく意味、全ての人々と共に今を生きていると知らされるのではないのでしょうか。

浄土とか極楽と聞くと、「そんなところは死んだ人がいくところ、若く元気な私には関係ない」と思われる方もいるかもしれませんが、「浄土」とは場所の名であるばかりでなく、仏さまからの「はたらき」をあらわす言葉なのです。今を生きているこの私にこそ、はたらいてくださるのが「浄土」なのです。(小宮山)



御礼

立華花材として、野村敏和様より蓮、窪田征子様よりグラジオラス、ひわまり、田中祥子様よりススキをいただきました。ありがとうございます。



初鐘並び、修正会のご案内

日程

●初鐘 令和六年十二月三十一日(火) 午後十一時四十分より開始

●修正会 令和七年一月一日 午前零時より開始

■場所 初鐘 鐘楼堂前
修正会 本堂



お年始参りのご案内

期間 一月六日～三十一日まで

●ご案内の日時につきましては、事前にハガキにてご連絡させていただきます。尚、この年始参り中の月忌参りはお休みとさせていただきます。

●一月中にご法事等を予定のご門徒様は、十二月二十日迄に別院にご連絡のうえ、調整願います。

御正忌のご案内

御正忌とは親鸞聖人の祥月命日(亡くなられたその日の事)を指します。親鸞聖人は十一月二十八日に亡くなったと伝えられています。(に勤まるお参りの事です。)



聖人の御命日をご縁として、そのお開きになられた教えを頂く大切な日です。皆様お誘い合わせの上、お参りください。

■日程 十二月二十八日(木) 午後一時より

■内容 御正忌お勤め、後法話

■場所 本堂 講師 輪番

公開講演会報告

九月十一日午後一時半 聴講者五十名程

この度、名古屋市長善寺前住職蒲池勢至先生をお迎えし、「亡き人の行方―二人の命終―」でお話頂きました。

先生の母親と妻が命終した後の二人の行方は、どうなのかをお話されました。母親は、お念仏を喜ばれた方で間違いない浄土に生まれているが、妻の方は、三十年以上の闘病生活、本当に浄土に往けたのだろうか疑問におもわれました。しかし、愛しさと悲しみの中で「南無阿弥陀仏」の音が妻と出遇われた事を、時間の経過とともに心の変容を篤く語って下さいました。熱心に聴講頂き誠にありがとうございました。



真宗の葬儀展示

十二月一日～五日 於、大谷ホール二階

葬儀は故人との最後のお別れの場と思いがちですが、又出遇わさせて頂く場でもあります。生前は会っていても本當に出遇えていたのでしょうか。

葬儀を通して再び故人と出遇い直させて頂く場でもあります。その意味では私たちの生き様を照らして下さい、仏様とその教えに出遇わさせて頂く場でもあります。

決して華美に飾ることなく、本来の意味を大切にし厳かに故人とのつながりを再確認させて頂きたいと思えます。

*当日は葬儀壇等を展示してあります。是非、御覧下さい。



別院子ども会

八月十四日夜に開催されたお盆の集いも二年目を迎え、多くの子ども達に参加いただけのお盆の一大行事となりつつあります。今年も保護者対子供のレクやビンゴ大会、花火など本堂内がより一層熱く感じられるほど盛り上がりつつあると時を過ごさせて頂きました。



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

地球温暖化から、地球沸騰化といわれる時代になってしまいました。世界各地で猛暑や豪雨、干ばつなどの異常気象が起きています。幼稚園の子ども達も、変わらぬ健やかに過ごしてはいますが、これからの時代を想像すると、私達にできることは何なのか、考えてしまいます。今、目の前の子ども達も、生きていくための大切な環境について興味や関心を持って、考えたり話し合ったりすることができる大人に育ってくれるよう、願いを込めて日々の保育を行っています。

0歳児ひよこ組



給食室の調理の様子をみえています。

1歳児りす組



窓のキャンバスに絵の具をペタペタ

2歳児うさぎ組



雨上がりの杜

3歳児こまぎ組



あさがおで色水ができました。

4歳児ぱんだ組



川遊びで、魚、やご、タガメを見つけました。

5歳児きりん組



焼き芋の「この味にしますか?」

畑の野菜

思い思いの野菜が豊作ですー



じゃがいも、大根、玉ねぎ

お楽しみ給食

7月は「おまつりランチ」
8月はオリンピック開催地「フランスランチ」です。



農家さんとの交流は続いています。

農家さんにもうった小松菜の種を畑に植えて育てました。立派に育ち、収穫！茹でたお味噌汁が美味しかったです。とっても美味しく、ありがとうございます。お手紙を書いて届けました。



きりん組 おまつりランチ

昨年、卒園したきりん組が、おまつりランチに招待してくれた日から、今度は自分達が小さい組さんを招待したいーと、思っていました。話し合いを何度もして、焼き芋、チョコバナナ、ヨーヨー、金魚すくい、またあて、お茶屋さんがオーブンにおまつり広場では、小さい組さんを思いやる優しい場面が溢れる一日でした。



ご門徒の声

お寺との出会い



門徒 佐藤 英行

私は、平成元年に八年間の内装修行から父(禧一)の経営する佐藤置店に三十歳の時に入社しました。当時旭川別院との仕事上のお取引、そして五月には仏教会で行われているお釈迦様の誕生日を祝う花祭りのお手伝い、十月には報恩講の準備が始まり、トラックの運転や裏方として野菜運びに奔走しておりました。

花祭りでは、仏教会の皆様が造った白象を忠霊塔から運び出し、トラックの荷台にロープでくくりつけて、一条通のアッシュまで運ぶ仕事でした。白象を園児達が一生懸命引いて歩く姿を見て、大変感動しました。その時、甘茶が振舞われ、甘茶を飲むと無病息災が叶うという言い伝えから、子供達の健康を願う行事として日本では奈良時代から広まっていたそうです。私も飲ませていただき、甘味料が入っていないのに砂糖が入っているような甘いお茶でした。

このような毎年行われている年行事のお手伝いから、お寺への関心が高まったように思えます。

私が三十代後半の頃に壮年会に誘われ、勉強会後の交流会で列座の皆様と壮年会メンバーの皆様との繋がりをより一層深められたと思います。今ではそのメンバーも段々と高齢化し、現在の行事を維持していく事が難しくなってきたりするのは明らかで、早急に、若い人達に年内行事の維持運営のために力を貸していただくようにしていかなければと思います。

御先祖様に手を合わせて、少しづつお寺との関わりに向き合ってみてはいかがでしょうか。

うどんダ

「いやなことご縁」

足を痛め病院に行きましたら全治三ヶ月の肉離れと診断されました。今日は六月初め、これから夏に向けてのイベントが沢山あるのに参加できないのではという、気持ちがいやになってきました。下を向けば内出血している紫色になって腫れている足、どうしても診断結果を受け入れられない私がいいます。しかし怪我をした事実から待たない私にいいいなことが起こってききます。今まで元気のいい時には全く気づかなかったことです。

怪我をし外出する際にどこに行くにもなかなか目的地までたどり着けない自分が嫌になってきます。朝、家を出発する際にはそのことを考えると心が折れそうになった日が多かった事です。

しかし、在家報恩講のお参りでは松葉杖を使いながらご自宅に行きました。玄関先で転んでしまった私を見て手を握って助けてもらったり、玄関で雪駄を脱いで仏間に行く時には肩を貸してもらったり、松葉杖をそのまま使った家の上が下さき等、沢山の優しい声をかけて頂くご縁を頂きました。今回怪我をしまして嫌な縁、良い縁と思っただけに仏様から、そのご縁も自分の思いや都合で生きている私を見せてくれる、大切なご縁と問いかげられた様に思いました。

(井畑)

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行われるよう準備を致しました。亡き故人とお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野車でお葬式をされた方は是非ご利用ください。





使用料 (葬儀・会場費込)

- 各広間 100,000円 (税込)
- 大谷ホール 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409